

東日本家族応援プロジェクト in 宮古 2020 リモート開催しました！

立命館大学大学院人間科学研究科教授 村本邦子

宮古のプロジェクトも、最終年は来年度に持ち越し、今年はリモートでの開催となった。現地のみなさんにはお忙しいなか無理を言っただけの ZOOM 参加ではあったが、「コロナのなかでもこんなふうに思いをつなげてもらえるのは嬉しい」と口々に喜んで頂き、安堵した。

リモートの形でのプロジェクトも、少しずつ慣れてきて、いろいろ新しい試みに挑戦している。いつも受け入れ窓口を引き受けてくださっている若竹会の鷺田さんや社協の佐々木さんが9年を振り返ってお話しくくださったことは、私たちにとって貴重な経験だった。

今回は、バーチャル・フィールドワークを取り入れてみたのも面白い試みだった。岩手県大船渡に住む河野暁子さん（D3）が、毎年訪れる齊藤さん（現在は田老総合事務所）、佐々木さん（田老学ぶ防災ツアー）、佐藤さん（宮古市市民交流センター）を訪ね、現地の様子やインタビューを動画で紹介してくれたのである。現地を知らない院生たちにも宮古の雰囲気や伝わり、またこれまで行ったことのある者には、現地とのつながりを再確認する懐かしい時間となった。今後のプロジェクトの展開にも、いろいろヒントを与えてくれそうだ。ZOOM を通してではあるが、遠野の大平さんの民話や尾林星さんの手作り紙芝居と歌のライブも味わい深かった。

福島プロジェクトでも、盛りだくさんのプログラムを準備している。リモートで、すべての地で漫画展開催と ZOOM での漫画トークが実現する。各種プログラムもリモートで可能であるし、リモートだからこそ参加可能になった院生や関係者があり、各地をつなぐこともできるようになった。あとは、現地の人々と交流するチャンスを広げていくこと、プロジェクトに参加していない全国の人々に発信する可能性などについても考えてみたい。

プロジェクトの内容を院生たちがまとめてくれた報告を下記に続ける。

11月7日(土)10時半-11時半、まず、遠野弁で民話を語る大平悦子さんの「**遠野の民話を味わおう**」から宮古プロジェクトはスタートした。楽しい民話から、過去の飢饉を題材にした遠野物語 53 話「郭公と時鳥」、99 話「大津波」と過去幾度も自然災害に見舞われたことを、民話の語りを通して、知ることができた。参加者アンケートには、「説明も交えて民話を語っていただき、とてもスムーズにお話が想像できたと共に、方言や語られ方の暖かさを感じることもできた。」「飢饉のお話を聞かせていただき、このコロナ禍での日常と、すこし重なるものを感じました。」「リモートであっても実際にお顔をみてお声を聴いて、語り継ぐ大切さを感じました。」など多くの感想が寄せられた。

11月7日(土)13時-14時半のプログラムは「**バーチャル・フィールドワーク**」。立命館大学大学院博士課程の河野暁子氏が実際に撮影された写真・動画を交えながら、宮古の町の様子を知ることができた。また、河野さんによる、齊藤清志さん（田老総合事務所）、佐々木純子さん（田老学ぶ防災ツアー）、佐藤美生子さん（宮古市市民交流センター）へのインタ

ビューから、宮古の現在や、それぞれの立場からの思いを聴かせて頂いた。後半は、「大船渡の祭りを見る震災からの復興過程」について河野さんにお話いただき、土地の祭りや芸能が持つ力について知ることができた。参加者アンケートには「動画が使われており、実際に現地に行っている感覚に陥りました。インタビューの様子から現地の方の気持ちが伝わり、胸に迫るものがありました。」「現地に行っていないのに、本当に行ったかのような満足感でした。現地の方たちのメッセージを動画で撮影して下さったことによって、生の声が聴けて、その中から学ぶことがたくさんありました。」など、多くの感想が寄せられた。

11月7日(土)15時-16時、最後のプログラムは、社会福祉法人 若竹会 多機能事業所 スキップのサービス管理責任者 鷺田さんと宮古市社会福祉協議会 地域福祉課の佐々木さんが、ZOOMで「宮古の9年を振り返って」と題し、今までの取り組みと私たちからの問いかけにこたえて下さった。実際に宮古でプログラムを実施している時は、運営に集中してゆっくりお話しできる時間がなかなか取れなかったが、今回は「一市民として震災から十年を振り返って感じていること」や「支援者として経験してきたことや感じてきたこと」をご自身のことばで語ってくださることで、葛藤されたり、心が動かされたりするなかで丁寧に向き合ってこられたことが伝わってきた。立命館大学や今まで出会った院生との関係も大事に思ってください、「離れているけど震災のことを忘れないでいてくれる人がいることは心強い。だからこそ風化させないで、きちんと伝えていくのが地元に住んでいる者の責任と思う。」というメッセージは、心に刻みたい。参加者アンケートには、「支援者でありながらご自分も被災者であるという立場の方のお話を聞かせていただけたことは、とても貴重な体験となりました。自分自身も支援者として震災がおきたらどうすればいいのか考えさせられました。」「現地の方の生の声はとても胸に響きます。震災当初からどのようにこれまでを生きてこられたのか、被災地の住民としても、また対人援助職に携わる者としても、様々な思いを抱えてこられたことが伝わってきました。」などをはじめ、多くの感想が寄せられた。

11月8日(日)10時半-12時からは、「団士郎 漫画トーク」が行われた。「アースカラー」「ソロ泊」という二つの作品が紹介され、グループセッションで感じたこと、連想したことなどを各々が自由に共有した。参加者からは、「いつも楽しみにしています。主体的に生きることの大切さを、改めて感じることでのお話でした。」「団先生の話の話を聞いていると、いつも元気になります。自分自身の考え方を見直すいい機会になっています。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。」「今回参加させていただくのは3回目ですが、毎回聞いて良かったと思えるお話です。漫画自体もそうですが、その前後の団先生のお話はとても面白くて興味深く、自分の今後につながるお話ばかりだと感じます。」など多くの感想が寄せられた。

11月8日(日)13時-13時40分、午後一番のプログラムは尾林星さんによる「宮古の歌と紙芝居ライブ」。尾林さんが浄土ヶ浜から中継しようと試みて下さった気持ちに感動した。民話を題材にした「しろこ地蔵」の紙芝居から始まり、歌は、宮古の郷土菓子「すっと

ぎ」や「ひゅうず」の作り方を歌ったものや、東京から宮古へ移ってきた尾林さんから見た宮古を歌にした「カラフル MIYAKO」など全6曲。尾林さんオリジナルの宮古の歌に心にしみ、ほっこりやさしい時を過ごすことができた。紙芝居や歌をとおして、人とつながり、土地の大事にしているものを次代へ伝えていくことは尊いことだと思う。参加した方々からは、「星さんの歌に元気づけられました。歌詞からも宮古の情景が伝わってきました。ありがとうございました。」「地元の間人でありながら、地元の良さを再確認できました。」「とても素敵な企画でした。すつとぎの歌が頭から離れなくなっています。すつとぎを食べてみようと思います。星さんの歌を生でぜひお聞きしたいです。ありがとうございました。」など、多くの感想が寄せられた。

11月8日14時半-15時、次いで若竹会鷺田さん、宮城県民話の会の加藤さんをまじえて、「支援者交流会」を開催、10年目の来年度の開催のあり方や、10年を終了したその後のこの取り組みについてのアイデアを参加者で意見交換した。「オンラインの可能性」についての意見が多く、また同じくらい「やっぱりリアルで会いたい、現地に行きたい」という声もあった。また、他の災害地域ともつながる機会をもったり、東北4県民話語り合いなどもできればよい、と11年目以降のアイデアは多く出ました。「土地の力」を知ること、「遠くのゆるやかなつながり」が大災害の時に効力を発揮することなど、知ることができた。参加者アンケートには、「参加される方によってとらえ方や、印象に残るポイントが違い、それを知れる交流会はとてもいい機会でした。今後も、現地でもオンラインでも繋がれる機会が続くといいと思います。」など、多くの感想が寄せられた。

11月8日(日)15時15分-16時15分、このプロジェクトの締め括りのプログラムである「振り返り」が行われた。この宮古のプロジェクトを通じて学んだことについて、個人の仕事や現在の学びと関連させながらシェアリングを行った。

コロナ禍でこのような形の開催となったが、現地へ赴かずとも、民話、語り、風景、歌などを通じて宮古を味わい、深く知り、繋がりを感じられる豊かなプロジェクトであったと感じる。これもひとえにプロジェクト参加、協力してくださった多くの方々のご尽力があってこそであり、深く感謝申し上げたい。

(赤田・寺岡・吉岡)

漫画トーク in 宮古 団士郎

先月の多賀城報告に以下のように書いた。

「・・・この後、宮古市、福島市とプロジェクトは続くが、また新たな追加(変更)を重ねるのかどうかは未定だ」

「アースカラー」「ソロ泊」の二話が今年の漫画トークの選択作品だが、zoom参加者を

定員設定で行っているプロジェクトなので、聞き手の過半数がリピーターになることがとても気になっていることを書いた。

例年だって大人数の参加者のあるものではないし、半数以上が大学関係者のことはあることだが、全プログラムに院生が関わることはない。せいぜい二度聞く人があるぐらいだ。それが今回は三度目の人が少くない。そこが気になって、二度目になるからと多賀城では付け加えた内容を、宮古ではカットした。その代わりに同じ話を繰り返し聞いて貰うことについて思うことを話した。

初参加で聞いた人には、様子のつかめないことになっていたかもしれないが、気がかりなことは明らかにしておく方が私のストレスは少ない。

更に、最終の振り返り時間枠の中でも、このことを話題にした。事務局は、そんなに気にしなくてもいいことだと言うってくれる。

今、2020年、zoomによる変則開催をしながら、2022年以降の継続可能性の中に、zoom版というのは大きな選択肢だなどと思っている。だから私には、各開催地のフィールドワークと「漫画トーク」をどんな組み合わせ方にするのかが思案どころだ。

尾林星さんの歌と紙芝居、宮古への想い
～2020 宮古プロジェクト報告に代えて～
鵜野祐介

はじめに

2020年11月7-8日、オンラインで開催された宮古プロジェクトに、3年ぶりに尾林星さんにご出演いただいた。星さんは、宮古市で絵本の読み聞かせなどの活動を行うNPO法人「輝きの和」代表・須賀原チエ子さんの娘婿で、2016年と2017年にプロジェクトに参加していただき、宮古にまつわる自作の歌や、昔話「しろこ地蔵」を用いた手作り紙芝居を披露して下さった方である。2017年の魚菜市场でのパフォーマンスがとても好評だったので、今回オンライン・ライブという無理なお願いをしたのだが、快くお引き受け下さった。

11月8日(日)13時から行われたライブのあらましについては、参加者アンケートの集計結果などを読んでいただくことにして、ここでは、紙芝居の原話である昔話の概要と、星さんのオリジナル曲の歌詞を紹介するとともに、彼が宮古に来た経緯や宮古への想いについてのメール・インタビューの内容を紹介して、プロジェクトの報告に代えたい。

昔話「しろこ地蔵」

この話は、稲田浩二『日本昔話通観 28 昔話タイプインデックス』(同朋舎出版、略号IT)では「天恵」の話型群に配属されている103「猿地蔵」の類話である。この話型は東北から九州・沖縄までほぼ全国に分布する。

IT のモチーフ構成は次の通り。①爺が山で粉まみれで昼寝していると、猿たちが爺を手車にのせ、猿のお尻濡らすとも地蔵のお尻濡らすな、と歌って川を渡る。②猿たちが爺に供物を捧げて去ると、爺はそれを持ち帰る。③隣の爺がまねて山で粉まみれで寝たふりをしていると、猿たちが爺を手車にのせ、猿のお尻濡らすとも地蔵のお尻濡らすな、と歌って川を渡る。④隣の爺がふきだすと猿たちは、にせ者だ、と爺を川へ投げこむ。

お地蔵様と勘違いした猿たちにより、お爺さんは幸運をつかみ、それを真似した隣のお爺さんは、川を渡る途中で笑ったために本物の地蔵でないことが猿たちにばれてしまい幸運をつかみそこねるといふ、「隣の爺」型の「天恵ばなし」である。

星さんの類話では、お爺さんが「しろこ」(＝米粉?)を顔に塗って意図的に地蔵になりすましているのが特徴である。岩手県和賀郡沢内村の類話では、山へ薪を取りにいったお爺さんが、お婆さんが昼の弁当用に作ってくれた「糊餅」を伸ばして顔に張り、切り株に腰かけて地蔵になりすましている。また、途中で猿たちが歌う場面があるのは、シンガーソングライターの星さんにぴったりの昔話と言え。ちなみに沢内村の類話ではこんなふうに歌われる。「猿のふんぐり(＝金玉)、濡れるとも、地蔵(じんぞう)のふんぐり、濡らすな」。

今回はオンラインでの上演であったが、コミカルでリズムカルなストーリーと、ほのぼのとした味わいのある水彩画をじっくりと愉しむことができ、「ふるさと宮古」をアピールするのに相応しい紙芝居だと感じられた。

「ひゅうずのテーマ」

星さんが作詞・作曲した郷土菓子「ひゅうず」のテーマソング。子どもたちが聞いたらケタケタ笑いそうな、ダジャレ満載の「新民謡」。

ひゅうずひゅうずひゅう
ひゅうずの外身 白い小麦粉
ひゅうずの中身 クルミと黒糖
ひゅうずの外身 餃子にちよい似
ひゅうずを味見
ウマイ もう一個

ひゅうずひゅうずひゅう
ひゅうずの種類 主に二通り
ひゅうず味噌入り ひゅうず味噌なし
どっちにしよう どっちを食べよう
どっちも味見
ウマイ 両方ください

ひゅうずひゅうずひゅー
誰かがひゅうずを 買ってきた
ひゅうずは「ひゅっ」と なくなった
誰かがひゅうずを 買ってきた
みんなで「ひゅっ」と 平らげた

「すっとぎラブストーリー」

これも郷土菓子「すっとぎ」のテーマソング。レシピが歌になっている。自分でも作ってみたくなる「逸品」。

すっとぎすっとぎすっとぎのストーリー
青大豆を洗って 一昼夜水につけおき
沸かしたお湯に塩ひとつまみ
大豆を入れて強火

すっとぎすっとぎすっとぎのストーリー
アクとりながら 7分 柔らかくなったら湯を切る
ボウルに水張り 大豆ポッチャン 素早く洗って冷ます
別のボウルを用意して うち粉 砂糖 塩 を混ぜ混ぜ
冷ました大豆をすりつぶしてボウルの中身と混ぜて混ぜて
もう一回すりつぶしてコネコネ
生地を分けましょう 300g
直径 5cm ながさは 20cm
好みの厚さに切り分け
ほら完成 We have Suttogi

2017年のプロジェクトでは、「魚菜市場」の一画で星さんがこの歌が歌っていると、聞いていたお菓子屋のおばちゃんが本物のすっとぎを持ってきてくださった。しかも、みんなが食べやすいように切り分けて、妻楊枝まで刺して……。 “We love Suttogi!”

「カラフル MIYAKO」

2013年に移り住んで間もない頃に創作され、星さんの宮古に寄せる想いが詰まったメッセージソング。今回のオンライン・ライブでも歌ってくださった。

未来の種を いっぱいまいて
芽吹いて咲いて みのり分け合う

海風かおる 港に立てば
森の子供が 手をふる MIYAKO

何もないところから 始めるのは怖いけど
じっとしてられない 今日一度
何か動いてる 誰かが呼んでいる
そつとよりそうように 耳をすませて

必死にサケが 川を登って
命の限り 光を運ぶ
恋人たちも 動物たちも
夕凧の中 手をふる MIYAKO

遠い昔のこと 僕らのご先祖さまが
植えた花の匂いを 嗅ぎながら
どうか隠さないで もえるような想いを
ちゃんと伝えたい 心尽くして

未来の種を いっぱいまいて
芽吹いて咲いて 実りを祈る
日の出と共に 目を覚ましたら
手をふる太陽 パワフル MIYAKO

尾林星さんへのメール・インタビュー

①生年と出身地は？

1982.10.10 富山県生まれ 育ちは関東(転居が多かったのですが主に横須賀、府中)

②宮古に来る前にやっておられた活動(職業)は？

フリーター(コンビニ、カフェ、焼肉屋、肉体労働系人材派遣、公園の売店員等)

③宮古に引っ越してこられた年と動機(きっかけ)は？

2013年10月に転居。主なきっかけは当時議員であり復興活動に忙しくしていた義母から現妻への里帰り要請。個人的な動機としては田舎暮らしへの憧れがあった。少しでも震災復興のサポートができればという気持ちもあった。

④現在の家族構成と主な活動は？

義父、義母、義弟、妻、私、息子の6人が共同生活

⑤（住んでみて感じた）宮古のいいところ、すごいなあと思うことは？

気候の穏やかさ、自然の多さ、海産物など特産品の美味、「ゆるくない」という言葉に表される、無理をしない、自分を大事にする気風。自己肯定感の高さ。少数派が地域に溶け込んで生き生きと暮らしているように見える点。よく言われているような田舎暮らしでの難点（監視されているようだとか、風習を守らないとのけものにされるとか）は、僕自身はあまり感じることはなく、むしろ大事にされていると感じる。

⑥宮古の課題点—変わるといいなあと思うことは？

地元で活動する若い人がもっと増えるとよい。津波浸水地域なので仕方がないが防潮堤によって天然の砂浜が減っていることは気になる。

⑦今後の抱負—これからどんな活動を展開していきたい？

宮古で暮らしつつ、創作、演奏活動の場を広げて次代を作るエネルギーの渦の一部として 元気が出るものをシェアしていきたい。目下、自身のアルバム音源を製作中。

おわりに

このプロジェクトを通じて、星さんのような「外部者の目」と「内部者の目」の両方を持ち合わせている若い世代の宮古市民の方と出会えて良かった。これからも、彼ならではの視点から、宮古が変わっていく姿と変わらない姿を発信していかれることを願うとともに、アーティストとしての今後のご活躍を心から祈りたい。

【尾林星情報】

web site <https://www.obayashisei.info>

YouTube https://youtu.be/U07Cxs_n_b_w

「東日本・家族応援プロジェクト in 宮古」に参加して

臨床心理学領域 M1 赤田亜紀

今年は実際に現地には赴けないが、その分宮古という土地に思いを馳せ、少しでも現地のことが知りたいという気持ちで事前学習を行い、プロジェクト当日を迎えた。

1日目、「遠野の民話を味わう」では、大平さんの暖かい方言で語られる民話をお聞きした。慣れ親しんだことのない方言のはずなのに、とても優しく耳に馴染み、懐かしい気

持ちになった。どのお話も印象的だが、『遠野物語』第99話という、明治三陸津波で妻をなくした夫、副二のお話は特に心に残っている。この話を聞いて、民話というものが過去の事実から地続きで伝承されているものだと実感できた。また、語り手の大平さんが、色々な人の東日本大震災の被災経験を聞くことで、この話への解釈が変化したことも興味深いと感じる。もっといろいろなお話を聞いてみたくなった。「とんびそめや」という話は自分がほんの小さい時にも聞いたことがあるお話であった。今まで忘れていたお話であるが、こんなところでまた出会えたことに嬉しさを感じた。民話というものは、一度聞くだけでも人の心に残り続けるものなのだと感じた。

「バーチャル・フィールドワーク」では、河野さんだからこそ引き出せたインタビューの語りの内容がとても印象に残っている。東日本大震災への思いや当時のことについて、様々な立場の人からの語りが自分の中に蓄積されていくのを感じた。学ぶ防災ツアーの佐々木さんの語りでは、「ツアーで語るのは悲しい話だけれど、伝えていきたい、ツアーで沢山のひとと出会えたことが財産なのだ」と、震災から10年、語り部ツアーを続けている今だからこそ思うことについての語りが心に響いた。一人一人が震災について知ろうと現地へ足を運ぶことが、現地の人々にとってもエネルギーとなるのだと思い、僅かながらでも自分にできることがあるのだと感じた。

団先生の漫画トークでは、同じ物語を繰り返し聞くことについてお話があった。同じ物語りであるからこそ、感じ方の違い、気になることの移り変わり、話の語られ方の違いを観察することができる。今年はzoomでの開催のため、他の地域のプロジェクトにも参加しているが、この繰り返すことで見えてくるものは、このプロジェクトに参加する上でも共通のテーマのような気がした。

2日目、支援者交流会では、震災時に被災者と支援者という2つの立場を持った鷺田さん、佐々木さんの、葛藤などがありながらも活動されていた経験をお聞きし、自分も支援を学ぶ者としての姿勢について考えさせられた。

宮古の歌と紙芝居ライブでは、尾林星さんによる宮古を題材として歌を聴いた。歌を聞いていると、行ったことがないはずの宮古の情景や色が思い浮かび、とても不思議な気分であった。明るくエネルギーをもらえるメロディーと歌詞で、宮古の爽やかな海と空の青、日の光の暖かさ、食べ物の優しい味などが連想された。これまで見聞きしてきた、情報、写真、映像、語り、民話、そして歌によって、自分の中の宮古のイメージが段々と形作られていったように思う。

このプロジェクトを振ると、本当に充実したものだったと改めて思う。また、このプロジェクトへの参加を通じては特に、繰り返し親しんでいくことの大切さを感じる。プロジェクトに参加しご協力頂いた方々のお話を聴いていると、これまでの繋がりや積み重ねというものが伝わってくる。また、宮古について、東北について、繰り返し触れていくことで自分の中にこの土地が好きだなという思い、自分ができることはなんだろうという土地への思いが生まれてきた。そして、自分の中に生まれた宮古とのつながりを今後も自分の

中で育てていきたいなという思いを抱いた。今回のプロジェクトで自分の中に生まれた宮古への愛着を胸に、いつか現地へ赴く日を心待ちにしている。

「東日本・家族応援プロジェクト in 宮古」に参加して

対人援助学領域 M1 寺岡一江

遠野の大平悦子さんの「遠野の民話を味わおう」から始まった2020年度の宮古プロジェクト。「きいておくれんせ」から始まる大平さんの語りは、遠野のことばが耳に心地よく、目の前にその情景が浮かんだ。全部で5つの語りを紹介してくださったが、なかでも東日本大震災後、意識してお話しされている「遠野物語99番」は、どのように震災を捉えるかについて考えさせられることが多かった。災害は忘れられないことだけれども、決して時が止まるのではなく、生かされた私たちは前へ進みたいと思う。他にも飢饉に見舞われることが多く、人々の歴史や苦しみが書かれていることも特長だと思った。それゆえ鶴野先生のコメントで「遠野の現実、風土に根付いて傳承されている」ということが印象に残っている。

博士後期課程の河野さんが、宮古へ実際に足を運び、縁のある人や場所を撮影くださった「バーチャル・フィールドワーク」。宮古の様子がよく分かり、また関わってくださっている宮古のみなさんの想いが伝わってきた。田老学ぶ防災ツアーの佐々木純子さんが「たくさんの人と出会えたことが財産」と言われたメッセージは心に残る。コロナ禍で県内の子どもたちの訪問が増えた。これからのことを考え、防災意識をもつ大切さを伝えるために、守りに入らず、きちんと真実を伝えなければと、真摯に子どもたちと向き合う姿勢に胸が熱くなった。今回は実際に宮古を訪れることができなかったが、その場の空気を共に吸っているような感覚を味わった。リモートの可能性がぐんと広がったように思う。

社会福祉法人 若竹会 多機能事業所スキップのサービス管理責任者 鷺田さんと宮古市社会福祉協議会 地域福祉課の佐々木さんが、ZOOMで「宮古の9年を振り返って」と題し、今までの取り組みと私たちからの問いかけにこたえてくださった。ご自身のことばで語ってくださる内容は、震災後に葛藤されたり、心が動かされたりするなかで、丁寧に自分や他者と向き合ってこられたことが伝わってきた。

尾林星さんによる「宮古の歌と紙芝居ライブ」。尾林さんが浄土ヶ浜から中継しようと試みてくださった気持ちに感動した。民話を題材にした「しろこ地蔵」の紙芝居から始まり、歌は、宮古の郷土菓子「すつとぎ」や「ひゅうず」の作り方を歌ったものや、東京から宮古へ移ってきた尾林さんから見た宮古を歌にした「カラフルMIYAKO」など全6曲。尾林さんオリジナルの宮古の歌に心にしみる、ほっこりやさしい時を過ごすことができた。紙芝居や歌をとおして、人とつながり、土地の大事にしているものを次代へ伝えていくことは尊いことだと思う。

支援者のふりかえりでは、宮城民話の会の加藤さんも交えて行われた。各プロジェクトと

も、参加しやすく交わりやすいのは、リモートならではのメリットだと思う。

書ききれない程の充実したプログラムだった。宮古をそして宮古につながる人を大事に思い合うところが伝わってきた。私自身も事前学習を担当することにより、自然と宮古の土地や関わってくださるみなさんへの想いが募り、実際にお会いできる日がくることを願ってやまない。

最後に、今回準備くださり参加して下さったみなさんに感謝の気持ちを伝えたい。

東日本・家族応援プロジェクト in 宮古 2020

対人援助学領域 M2 吉岡玲子

【プロジェクト参加目的】

2019年度、宮古のプロジェクトに初めて参加させていただき、そこに住まう方々にお会いし、企画運営に携わる中で、歴史的に津波被害を繰り返し被ってきた宮古。再建し、生活を取り戻していく人のレジリエンスに触れることができればと思い今回2度目の参加を決意した。2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大予防のため、あらゆる私たちの生活において人との距離をとることを余儀なくされている。オンラインではあるが、本プロジェクトを開催決行することに、意味を感じた。

【プログラムを通して感じたこと】

遠野の語りを今年も大平さんからお聞きすることができた。コロナ禍であることもあるのだろうか、飢饉のときの話がとても心に沁みた。

ドクター河野さん力作の「バーチャルフィールドワーク」で、去年の防潮堤で感じた風の冷たさや、音など、佐々木さんの声を聴いて記憶が呼び戻された。最後に、伝統芸能や祭りの文化が地域に果たす役割の説明を受け、経験や考え方が異なる者同士を結びつける装置となっており、「このプロジェクトもそういうものだと思う」との河野さんの考えに、深く納得させられた。

「宮古の9年を振り返る」では、去年はプログラム運営をされていた鷺田さんや佐々木さんから9年の経験や感じられていたことなどをお話いただいた。

団先生の漫画トークでは、青森の方とブレイクアートルームで話したときに素敵な言葉をいただいた。「街角サロンってみんなにそれぞれ必要よね。ふとしたときにアースカラーの人のように、自分にはもちえなかった視点を声かけもらったら、気持ちが変わったり、その人にとって、気づきになるよね」と。自分の些細な経験と、アースカラーの意味することを結び付けてもらえた。

尾林星さんが、はじめ浄土ヶ浜からライブを試みてくださったが、電波状況がよくなかったため、冒頭浜からお宅に車で戻る途中、オンラインの映像で、宮古の青空がみえた。その

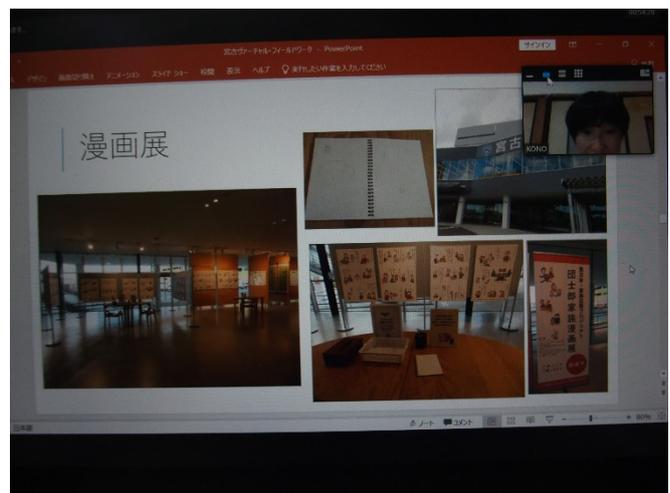
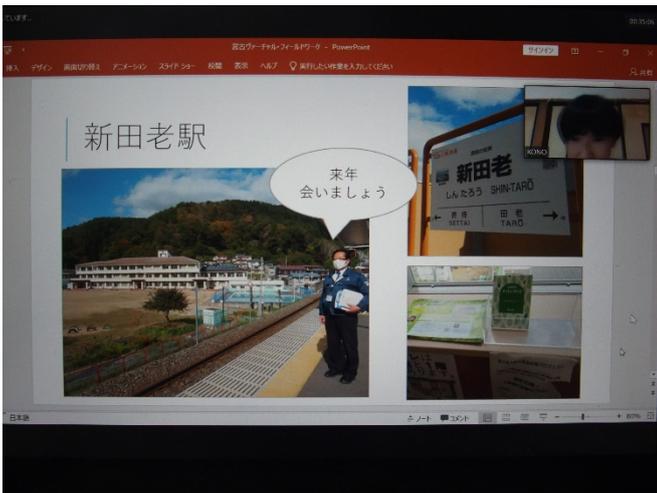
澄んだ空は星さんの声にフィットしていたと感じた。たくさんのお歌を聞かせていただいたが、「カラフル宮古」という歌が特に印象に残った。

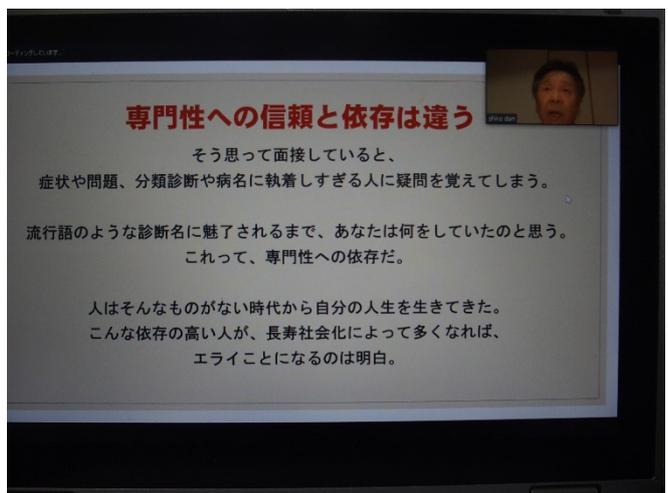
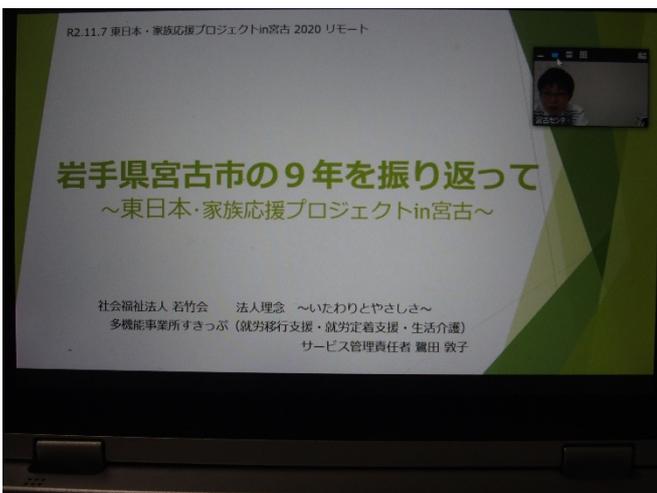
【コロナ禍でのプロジェクト参加2年目】

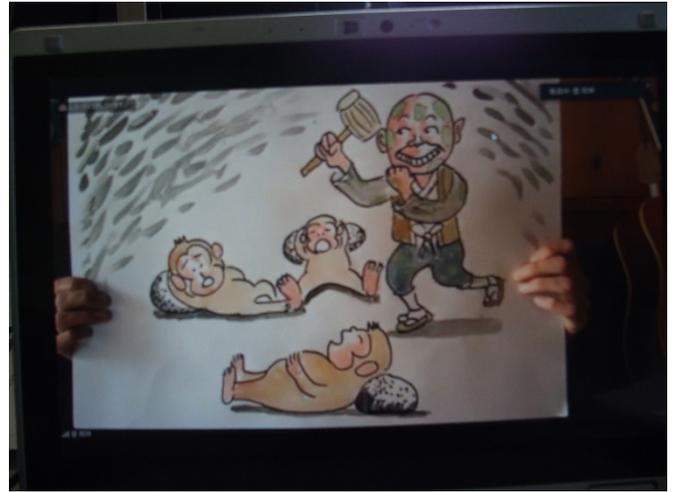
2011年3月から9年7か月経過した宮古の人たちと、2年連続お会いできたことは私にとって大変意味があった。昨年は現地へ赴き、五感を使って感じることはできたが、今年オンライン開催であったため、圧倒される場の力は感じなかった。しかし、Zoomを共有し、互いに同じフレームの大きさで発言しあったり、聴いたり、反応したりといった環境のおかげで、私自身が宮古のみなさんを近く、むしろ「ともにいる」感覚を強くもつことができた。昨年は、「震災直後は、心も体力もすり減りとしてつもなく負荷のかかる日々を追われていただろう」と察していたのだが、今年、「9年を振り返る」企画では、ご本人から当時の戸惑いや葛藤、不安を直接聞くことができた。昨年私が「察した」以上に、ご本人からの声は、またぐっとくるものがあった。

「2年目の参加は、また深まるよ」と先生が発言された意味が、今回理解できた。プログラムを各地で主催してくださる東北のみなさまに心から敬意と感謝を表したい。

10年の節目を迎えた後に、このつながりをどういう形で実現していくかという問いに、このコロナ禍がもたらしたオンラインというツールを駆使した2020プロジェクトが、ひとつの在り方を示したのではないだろうか。









団士郎漫画トーク

11/8(日)

ZOOMによる
オンライン開催

- ◆ 時間：10:30~12:00
- ◆ 定員：30名
- ◆ 参加費：無料



団士郎家族漫画展

会期:10/24~11/13

宮古市市民交流センター 1階



団士郎プロフィール

立命館大学大学院人間科学研究科客員教授
家族療法家・漫画家
公立の児童相談機関心理職 25 年を経て独立。「仕事場 D・A・N」主宰。漫画家でもあり、「かぞくのじかん」(婦人之友社)ほか数誌に「木陰の物語」連載中。
マンガ集団「ぼむ」同人、web雑誌「対人援助マガジン」編集長

家族はたくさんの思いがけない悲しみや苦しみも運んできます。
しかし一方、家族を得ることが、こんなにも自分の人生を豊かにしてくれるのだと実感する人もたくさんいます。
そんな家族への思いから作られた「木陰の物語」。
活動 10 年目を迎えた今の気持ちなどをお話したいと思います。
お時間が合いましたら是非ご参加ください。

- ◆参加条件: Zoom を使ったオンラインでの開催となります
インターネット環境があり、パソコン(カメラ・マイク内蔵、もしくは別にセットしたもの)もしくはスマートフォンの準備が必要です
- ◆申込期間: 10月24日(土)9:00~11月4日(水)17:00
* 申込期間中定員に達した時点で、締切らせていただきますのでご了承ください
- ◆申込方法: いずれかの方法でお申し込みください
1. 右記の二次元バーコード(QRコード)から専用フォームでのお申込み
2. ①お名前、②年齢、③メールアドレス、④連絡先を明記の上、下記メールアドレスにお申送ください。
メール ejfspj2011@gmail.com 件名に必ず「漫画トーク」係と記載してください



<お問合せはこちらまで>
立命館大学大学院人間科学研究科
震災復興支援プロジェクト
東日本・家族応援プロジェクト事務局
Email: ejfspj2011@gmail.com

東日本・家族応援プロジェクト 2020 in 宮古 リモート

2011年から始めた10年プロジェクト。岩手県は、2011年遠野市からスタートして、2012年からは大船渡市、そして2014年からは宮古市で開催しています。

今年度はコロナ感染拡大防止のため、ワークショップなどの開催は次年度に持ち越しますが、団士郎家族漫画展は宮古市市民交流センターで開催し、11月7日(土)～8日(日)に、オンライン配信で現地のお世話になっている皆さまと一緒に宮古の今の様子などをお聞きするセッションを開催いたします！

来年は、皆様と一緒にプロジェクトができることを願っています。

ZOOMによる
オンライン開催

団士郎家族漫画展



会期・場所
10/24(土)～11/13(金)
9:00～21:30
宮古市市民交流センター1階

11/7(土)

遠野の民話を味わう

時間: 10:30～11:30

語り手: 大平 悦子氏(遠野市出身、日本民話の会)
聞き手: 鶴野 祐介(立命館大学教授)

遠野に伝承されてきた昔話や伝説、また明治三陸大津波にちなんだ『遠野物語』第99話などを、遠野出身の大平さんに土地言葉で語っていただきます。民話の世界をたっぷりと味わってください



バーチャル・フィールドワーク

時間: 13:00～14:30

案内人: 河野 暁子氏(立命館大学大学院博士課程)



宮古や大船渡などの現在の様子をお世話になっている宮古の皆さまにインタビュー、また、漫画展会場の様子を写真などで紹介します。

宮古の9年を振り返って

時間: 15:00～16:00

語り手: 鷺田 敦子氏(社会福祉法人若竹会はあとふるセンターみやこ多機能事業所すきっぷサービス管理責任者)
佐々木 伸子氏(宮古市地域福祉課)

聞き手: 村本 邦子(立命館大学教授)

宮古の9年の復興状況や現在の状況などについて語っていただきます。



11/8(日)

団士郎漫画トーク

時間: 10:30～12:00

定員: 30名



団士郎プロフィール
立命館大学大学院人間科学研究科客員教授
家族療法家・漫画家
公立の児童相談機関心理職25年を経て独立。「仕事場D・A・N」主宰。漫画家でもあり、「かぞくのじかん」(婦人之友社)ほか数誌に「木陰の物語」連載中。マンガ集団「ぼむ」同人、web雑誌「対人援助マガジン」編集長

- ◆参加条件: Zoomを使ったオンラインでの開催となります
インターネット環境があり、パソコン(カメラ・マイク内蔵、もしくは別にセットしたもの)、もしくはスマートフォンの準備が必要です
- ◆申込期間: 10月24日(土)9:00～11月4日(水)17:00
*申込期間中定員に達した時点で、締切らせていただきますのでご了承ください
- ◆申込方法: 右記の二次元バーコード(QRコード)から専用フォームでお申込みください



宮古の歌と紙芝居ライブ

時間: 13:00～13:40



出演: 尾林 星氏(宮古在住、ミュージック・パフォーマー)
進行: 鶴野 祐介(立命館大学教授)

宮古で地域密着型の音楽活動を展開されている尾林さんに、宮古にちなんだ自作の歌や手作り紙芝居を上演していただきます。若い感性が表現するふるさと宮古の魅力を堪能してください



支援者交流会

時間: 14:00～15:00

参加者: 立命館大学のプロジェクトメンバー
社会福祉法人若竹会メンバー
本プロジェクトに関心のあるみなさま他

これまでのプロジェクトを振り返り、交流するとともに、今後について一緒に考えることができたらと思います。



東日本・家族応援プロジェクト 2011▶2019

復興支援活動紹介

団士郎家族漫画展&プロジェクト報告 in 上海 2014年5月9日~11日



団士郎家族漫画展&プロジェクト報告 in ニューヨーク 2015年3月5日~11日



団士郎家族漫画展&プロジェクト報告 in 台北 2015年11月21日~22日



at 立命館大学 衣笠キャンパス 2011~2017 大阪いばらきキャンパス 2018~



- 出版 ●団士郎家族漫画展
- 漫画トーク ●HPでの情報発信
- 研究会(毎年8回)
- シンポジウム&活動報告会(毎年1回)

in むつ 2011~



- 団士郎家族漫画展
- 漫画トーク
- 支援者支援セミナー
- お父さんセミナー

in 福島 2011~



- 団士郎家族漫画展
- 漫画トーク
- クリスマスカレンダーを作る
- 遊びコーナー
- おもちゃコンサルタントによる遊びの講習会(NPO法人ビーンズ福島)

in 浪江 2017



- 団士郎家族漫画展
- 漫画トーク

in 宮古 2013~



- 団士郎家族漫画展
- 漫画トーク
- 支援者支援セミナー
- アートで遊ぼう(社会福祉法人若竹会)
- ふるさととの歌や物語を楽しもう(NPO法人輝きの和)(宮古読み聞かせの会「ぞうさんのミミ」)

in 石巻 2014~



- 絵本と民族楽器のコラボレーション
- 学生と遊ぼう
- ロビンさんと遊ぼう

in 多賀城 2012~



- 団士郎家族漫画展
- 漫画トーク
- おはなし会(多賀城民話の会)
- うたとおはなしと伝承遊びを楽しもう(おおぞら保育園)

青森県むつ市

2011年9月19日~24日	むつ市市立図書館
2012年9月3日~9日	むつ市市立図書館
	むつ市中央公民館
2013年8月31日~9月8日	むつ市市立図書館
	むつ市中央公民館
2014年8月23日~9月7日	むつ市市立図書館、むつ市役所、むつ市中央公民館
2015年8月10日~30日	むつ市市立図書館、むつ市役所、むつ市中央公民館
2016年8月15日~9月14日	むつ市市立図書館、むつ市役所、むつ市中央公民館
2017年8月10日~9月3日	むつ市市立図書館、むつ市役所、むつ市中央公民館
2018年8月10日~9月2日	むつ市市立図書館、むつ市役所、むつ市中央公民館
2019年8月9日~9月1日	むつ市市立図書館、むつ市役所、むつ市中央公民館

宮城県仙台市

2012年10月1日~10月6日	エルソール仙台
------------------	---------

宮城県多賀城市

2012年10月7日	多賀城市立図書館
2013年10月1日~27日	多賀城市立図書館
	多賀城市公民館
2014年10月1日~30日	多賀城市立図書館
2015年9月1日~29日	多賀城市立図書館
2016年10月1日~30日	多賀城市立図書館
2017年10月6日~22日	多賀城市立図書館
2018年10月5日~21日	多賀城市立図書館
2019年9月19日~10月8日	多賀城市立図書館

宮城県石巻市

2014年10月4日~5日	石巻身体障害児通園施設かみも学園ほか
2015年9月12日~13日	石巻東原児童、めだかの学校、万葉苑
2016年11月4日~6日	めだかの学校、めだかの楽園ほか
2017年11月3日~5日	石巻中央ライオンズクラブ、和光園ほか
2018年11月2日~4日	みんなの夢広場、稲井デザインサービスセンター
2019年11月1日~3日	みんなの夢広場、浜公営住宅

岩手県遠野市

2011年11月1日~11月6日	遠野市の道ギャラリー
2012年11月2日	遠野市白岩児童館

岩手県大船渡市

2012年10月22日~11月3日	大船渡市民交流館、「カメラホール」
-------------------	-------------------

岩手県宮古市

2013年11月1日~3日	おでんせプラザ
	若手若地区仮設住宅集会所
2014年10月27日~11月7日	おでんせプラザ、りあす亭、宮古市総合福祉センター

岩手県宮古市

2015年11月5日~12日	シートピアなど
2016年11月4日~8日	シートピアなど
2017年11月3日~7日	宮古市魚菜市場
2018年11月2日~12日	宮古市魚菜市場
2019年10月21日~11月5日	イーストピア宮古市民交流センター
	宮古市魚菜市場

福島県福島市

2011年11月29日~12月4日	福島市民活動サポートセンター(チェンバ(おおまち))
2012年11月26日~12月2日	福島市民活動サポートセンター(チェンバ(おおまち))
2013年12月1日~8日	福島市民活動サポートセンター(チェンバ(おおまち))
2014年12月1日~7日	子どもの夢を育む施設こむこむ
2015年11月30日~12月6日	子どもの夢を育む施設こむこむ
2016年11月24日~12月4日	子どもの夢を育む施設こむこむ
2017年12月1日~3日	子どもの夢を育む施設こむこむ
2018年11月30日~12月2日	子どもの夢を育む施設こむこむ
2019年11月20日~12月7日	子どもの夢を育む施設こむこむ

福島県双葉郡浪江町

2017年12月1日~8日	浪江町復興センター
---------------	-----------

福島県二本松市

2011年1月28日~1月29日	二本松市民交流センター
2012年11月5日~11月11日	二本松市民交流センター
	安達運動場跡地仮設住宅
2013年11月11日~17日	二本松市民交流センター
	安達運動場跡地仮設住宅
2014年11月10日~16日	二本松市民交流センター
	旧平石小学校仮設住宅

京都府京都市

2012年8月17日~20日	ウイングス京都
2013年10月10日~13日	ウイングス京都ほか
2014年10月8日~13日	東山いきいき市民活動センター
2015年12月1日~8日	なごみ他

大阪府茨木市

2018年1月10日~2月12日	立命館大学大阪いばらきキャンパス
2019年1月16日~3月11日	立命館大学大阪いばらきキャンパス